



財団法人日本医療機能評価機構認定病院  
DPC II 群  
地域医療支援病院  
地域がん診療連携拠点病院  
臨床研修指定病院

Iwate prefectural Central Hospital

NO.279  
2017 December

岩手県立中央病院

# ふれあい



## 基本理念

高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院

## 目次

高齢化社会で外科に求められているのは？  
形成外科 開設より半年が経過して  
オープンホスピタルを終えて

医療局の紹介  
ひまわりバザーを開催して  
編集後記

副院長 宮田 剛	.....	2
形成外科長 新井 雪彦	.....	3
医療研修部長 高橋 弘明	.....	4, 5
看護部次長 笠寺 容子	.....	4, 5
事務局長 小笠原 一行	.....	6, 7
ボランティア委員会	.....	8
広報委員長 島岡 理	.....	8

## 【行動指針】

1. 良質な医療の提供
2. 優れた医療人の育成
3. 地域医療機関への診療支援
4. 救急医療の充実
5. 災害医療の体制整備
6. 臨床研修体制の充実
7. 健全で効率的な病院経営

※広報誌「ふれあい」は1,800部を作成し、県民、連携医療機関、行政機関等に岩手県立中央病院の情報をお届けしています。

## 高齢化社会で外科に求められているのは？

副院長・医療安全管理部長・消化器外科長 宮田 剛

副院長の宮田剛です。専門は消化器外科です。

消化器外科医は腹痛の元となる原因や、がんの病巣を手術によって取り除くのが仕事です。術後の痛みを乗り越え目的を達成することができたとき、患者さんと喜びを分かち合える大変やりがいのある仕事と思っています。ただ取り除きたいけれどもそれが難しい、あるいはできない場合もあります。それは、病巣が手に負えないくらい進行しているとき、あるいは手術に耐えられないくらい患者さんの体力が落ちているときです。ご高齢の患者さんが多くなった昨今は、まさにこの点が大きな悩みどころです。「これだけ身体機能が低下しているご高齢の患者さんにこの手術を行ったら、何らかの機能障害（腎不全や心不全、あるいは脳卒中など）の危険性が高い」「手術をしたことによってかえって不幸な事態に陥るのは避けなければ・・・」真剣に悩みます。病院は患者さんにとっては絶対的信頼のおける救命の場であるべきですし、「医学」としてはどんな状況でも治療ができるような技術が開発されるべきですが、実際の現場ではこのような葛藤は常につきまとい、残念ながらある一定の割合で治療に伴う有害事象（合併症）が起こっているのも現実です。合併症の危険性と手術を行うことのメリットのバランスをご本人、ご家族にご説明しながら治療方針は決めていますが、悩ましい場合も増えています。



ところで欧米には「寝たきり老人」という言葉はなく、いわゆる寝たきりで人工栄養などの手段で延命されている老人は少ないそうです（宮本顕二、宮本礼子共著「欧米に寝たきり老人はいない」中央公論社 2015年）。なぜでしょう。医療技術が進歩してどんな方でも治してしまうからでしょうか？医療としてそれも理想的ですが、実際の理由は違うようです。医療を受ける側として、無駄な延命治療を望まない発想の違いがあるようです。回復の見込みがなく口から食事ができないようになった場合に無理やり栄養を投与して生かし続けることは、むしろ老人虐待であるという考えすらあるとのこと。これは宗教観など日本とは根本的に状況が違うのだろうか、と当初感じましたが、必ずしもそうではなく、彼の地でも延命治療も盛んにおこなわれていた時期があったと書かれています。つまりどこかの時点で医療に期待することが変化してきたということでしょう。先日、治療法説明の際に「手術は受けたいと思います。でももし助からないよう

な状況になったら、無駄な延命処置は一切しないでくださいね」とにこやかに仰るご高齢の女性がおられました。価値観はそれぞれです。その方だけが正解でもありませんが、それを知った上で納得のいく医療を提供することが必要と考えていた私としては、何かが整理されたような清々しさを感じました。「了解しました。また経過に沿ってご説明しますが、ご意向は踏まえた上、全力で治療を進めていきます」とお返事させていただきました。



初めまして、今年度から事務局長として勤務しております小笠原と申します。  
さて、広報委員会から標記件名に関して原稿を依頼されましたので、今までの医療局本庁勤務の経験も踏まえ紹介していきます。



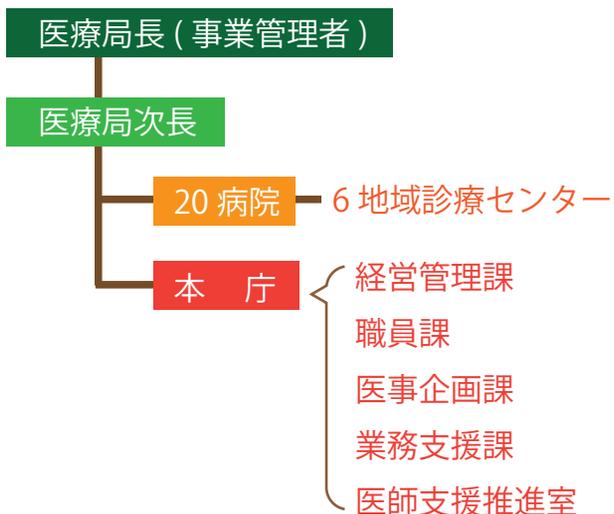
まず、20病院・6地域診療センターという全国一の公的医療網を誇る岩手県立病院がどうしてできたのか？について少し触れます。

岩手県立病院の前史は、昭和の初期に遡ります。

岩手県は四国4県に匹敵する広大な面積を有し、当時はそのほとんどが山間へき地の農村漁村で、交通が極度に不便であり、加えて冷・干・水害等により生活は困窮を極めていました。このような中で住民の健康状態は悪いにもかかわらず医療に恵まれない不幸な地域が数多く存在しました。

このような状況から「自分たちの健康は、自分たちで守ろう」として少しばかりの出資金を出し合い、共同で自らの医療を確保しようとする運動が巻き起こり、さまざまな変遷を経て、昭和25年2月県議会において県が一括して買収し県営とすることを満場一致で決定し、昭和25年11月1日に医療局が設置されました。

現在の医療局の組織は「県立病院等事業の設置等に関する条例」（昭和25年10月2日岩手県条例第51号）に基づき、事業管理者として医療局長を置き、組織のイメージとすれば以下のとおりとなり、本庁は病院をそれぞれの分担において支援することとなります。



さて、それでは本庁の分担について紹介することとします。

## 経営管理課

医療局棟の2階に位置し、分担事務としては「県議会対応」、「経営計画策定、経営指導」、及び「予算・決算事務」等「経営系」と「土地・建物の取得」、「病院の施設整備」の「施設管理系」を所管しています。

また、課の役割から建築・電気・機械の技術系職員も配置されています。

具体的には、例えば「新たに病院で〇〇の事業を行うために必要な△△の予算が足りない。」、「〇〇室と△△室を改修して◎◎室にしてスペースの有効活用したい。」などといった要望の際にお世話になる課です。

## 職員課

医療局棟の3階に位置し、分担事務としては「職員採用・人事異動」、「組織・定数関連」、「給与・勤務時間等関連」、及び「職員の能力開発・福利厚生関連」等「ひと絡み系」を所管しており、加えて各種手当の認定事務を引き受けています。

具体的には、採用・異動・退職に関してはもちろんのこと、「こんな勤務形態は実施可能だろうか?」、「病院機能に合わせて職員配置をしたいのだが?」といった要望・問い合わせの際にお世話になる課です。

## 医事企画課

医療局棟の1階に位置し、分担事務としては「病院医事業務の分析・指導」、「診療契約関連」、「地域医療連携関連」及び「収入・電カル系」、「情報システム関連」等を所管しています。

具体的には、「点数表に〇〇と書いてあるが、その解釈は?」、「この部屋を〇〇室に変更したいが、保健所への届出は?」、「電カル端末が不足しているが」、「電カルの操作性が悪いが」といった要望・問い合わせの際にお世話になる課です。

## 業務支援課

医療局棟の1階に位置し、分担事務としては「病院の事業運営に要する業務(委託・賃借等)に係る指導・分析」、「薬剤・看護やその他の医療技術職への支援」、「医療相談」、「医療器械・備品の取得」及び「薬品等貯蔵品の取得」等「業務指導・調達系」を所管しています。

また、課の役割から薬事・診療放射線・臨床検査・看護・栄養の各指導監を配置しています。

具体的には、「現在使用中の医療器械が破損し、業務に支障を来しているが?」、「新たに〇〇業務を行うに当たり、業務委託が効率的ではと考えるが?」、「SPDさんと協議し、診療材料の伸びを分析し指標となりそうなデータを見つけたが?」といった要望・問い合わせの際にお世話になる課です。

## 医師支援推進室

医療局の3階に位置し、分担事務としては「医師の確保・支援」及び「医師の処遇・研修」等まさしく「医師対策系」を所管しており、全国でも珍しい医療局と保健福祉部との共管組織となっています。

それぞれが他の兼務職員となり、一体となって医師の確保及び支援に係る教務を行っています。

具体的には「息子(・娘あるいは知人の子)が医学部に進学したいが、奨学金の制度はないか?」、「知人の医師が岩手県内の医療機関で(県立病院に限らず)勤務したいようだがどこに相談したら良いのか?」といった要望・問い合わせの際にお世話になる室です。

以上、ざっくりと紹介しましたが、お役に立てましたか?

平成 29 年 4 月より、常勤医師 1 名体制にて形成外科が発足いたしました。当院では、それ以前には外来も含め、形成外科診療を行っておらず、ゼロからの出発となりましたが、発足より 6 ヶ月あまりが経過し、徐々に患者様のご紹介が増えて参りました。

院外紹介においては、皮膚科、形成外科、整形外科、眼科などの先生からご紹介をいただいております。皮膚・皮下腫瘍のご紹介が最も多く、その他、肥厚性瘢痕、眼瞼下垂・睫毛内反、眼窩底骨折、虚血による壊疽や圧迫性潰瘍などの足病変等のご紹介を頂いております。

院内紹介においては、皮膚科（皮膚・皮下腫瘍）、整形外科（骨折に伴う皮膚軟部組織損傷）、乳腺内分泌外科（乳房再建）、循環器内科（動脈硬化症にともなう足壊疽）、心臓血管外科（縦隔炎、人工物感染にともなう潰瘍）等の紹介を頂き、協力して診療に当たっております。

外来診療は週 3 回（火、水、木曜日の午前）、5 番外来の一室にて行っております。患者様の待ち時間を可能な限り短くするべく、効率的な診療を目指しております。患者様をご紹介頂きます際には、紹介状の内容を事前に fax にてご送付頂きますと、待ち時間縮減に繋がりますので、ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。形成外科外来には処置スペースがなく、急患処置については救急外来にて、生検を含む手術は中央手術室において予定手術として行っております。初診の患者様から当日手術が可能と思っていたとのことのお言葉をいただくことがありますが、都度事情をご説明させていただいております。

手術は、月曜日、金曜日終日、および木曜日午後に行っております。基本的な手術器械・材料についてはおおむね揃え、腫瘍切除、植皮術、皮弁術、顔面骨骨折などの形成外科における基本的な術式は、ある程度実施して参りました。しかしながら、それぞれの術式の実施数は少なく、初めて行う術式も多いため、円滑な手術実施に向けて手術室の形成外科担当スタッフとミーティングを重ねて、入念に準備を行っております。今後対応できる手術の幅を広げて参る所存ですが、県立病院である当院の性格上、美容外科診療および定めのない自費診療は行うことができません。美容以外の自費診療については、術式・費用・患者数の検討を行い、今後実施を目指して参りますが、当面は岩手医科大学等と連携して参ります。

患者様および先生方のお役に立てますよう、日々向上を図って参りますので、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



11月10日(金)に、毎年恒例となったボランティアひまわり主催のバザーを開催しました。昨年に引き続き、フリーマーケットを中心に、おだんご、野菜の販売を行い、ワークショップとして、押し花のしおり作り、折り紙のコマ作りを参加者と一緒に楽しみました。

今年は、職員、ボランティアの趣味の発表もあり、素晴らしい作品の数々が並び、バザーに華を添えました。

毎年、ボランティアさんたちのご自慢の手料理を囲み、ボランティアと職員のコミュニケーションの場ともなっています。

ご協力を頂いた方々、お買い物をして頂いた皆さま、ありがとうございました。



### 編 集 後 記

本年は十二支の中でも動きが激しい年になる事が多いとされている酉年に違わず、いろんな動きがあった気が致します。米国トランプ大統領就任に始まり、北朝鮮の大陸間弾道ミサイル問題、欧州移民問題とそれに関わるIS本拠地の壊滅、不信感が高まる政界の不祥事、そして大相撲の横綱暴行事件などなど。日馬富士問題は相撲協会の体質問題のみならず国際問題にも発展しかねない形相になって来ていますよね。「横綱」という名前は元々大相撲最高位であった大関の中にあって「綱を張る」事を許された関取に対する名誉称号であって、単に相撲が強いものだけに与えられるのではなくそれにふさわしい品格と抜群の力量を要求され、唯一、神の依り代である白麻の綱を腰に締めることを許された存在として神格化されていた称号の様です。「ふさわしい品格」という言葉は定義が難しく理解に苦しむ点が多いのかもしれませんが、しかしかなる場面でも、神だからといって人を凶器で殴るようなことが許される事は決してないのではないかと思います。また個人だけの問題ではない様々な事実が明らかになりつつあるにつけ、組織の中の危機管理、それに対する対処など社会組織の中でも参考になる点が多い事例の様な気が致します。来年もよろしくお願い申し上げます。



### おしらせ

次回の健康講座は・・・

**腎不全・失明の最大原因糖尿病**  
**ー糖尿病と診断されたその時から**  
**始まる戦いー**

平成29年12月23日(土)  
 14:00～16:30

プラザおでっでで開催します。  
 多くの方のご参加をお待ちしております。



 岩手県立中央病院

〒020-0066 岩手県盛岡市上田1-4-1  
 TEL:019-653-1151 FAX:019-653-2528  
<http://www.chuo-hp.jp>

ふれあい No.279 平成29年12月発行  
 中央病院広報委員会

◆委員長 島岡 理

相馬 淳	吉田 朗
吉川 和寛	照井 彰子
下川原 裕見子	城戸 直人
佐々木 貴美子	藤原 綾乃
片岸 久	小笠原 学
岩渕 ひろ絵	大久保 拓也
菊池 莉栄	吉田 奈穂子

「ふれあい」はホームページでもご覧いただけます。



医療研修部長 高橋 弘明

昨年に引き続き、今年は第2回目のオープンホスピタルを開催しました。オープンホスピタルと名付けた催しは、大学を紹介するオープンキャンパスのように、病院に来ていただいて、病院の仕事紹介や内容を見学・体験できる機会を提供するものです。そして将来、何らかの職業につく中学生、高校生や地域の人々などに病院で働く仕事を紹介し、医療人として活躍する人を増やしたいというのが一番の目的です。

病院は医師や看護師だけではなく、非常に多くの職種によって成り立っています。たとえばクリニカルエンジニア、言語聴覚士という職種を知っていますか。どちらも、他の多くの職種も、病院にとっては欠かせない専門家です。このような病院で働くいろいろな職種を知っていただき、可能な限り実際に体験していただく。そしてその資格はどうしたら取れるのか、実際に病院で働いている専門職の人々と相談したり、ふれ合う機会を提供するものです。将来の職業として興味をもていただければ、今回は51のブースで説明や展示、実技参加をしていただきました。当日は台風で活発化した秋雨前線のためあいにくの雨にも拘わらず、375名に参加していただきました。

今後、医療人としての道を選択し、希望した領域の専門家として活躍されることを期待しつつ、参加していただいた皆さんのアンケートを参考に、これからもこのような機会を設けていきたいと考えています。

今年度も看護部は、看護師・助産師ブースの他にも各部門との連携により様々なブースで活躍しました。深刻な看護師不足に立ち向かうべく、将来の人材確保と後輩育成に役立ちたいと、アイデア満載のパワーアップした取り組みとなりました。

提供した職業体験は以下のとおりです。

- 看護師：腕シミュレーターを用いた静脈注射穿刺体験
- ユニホーム着用体験（ナイチンゲール像の前で写真撮影）
- 助産師：人形を用いた新生児沐浴体験
- 他部門への協力：手術室麻酔体験（手術室看護師）
- 形成外科 実態顕微鏡下血管吻合（手術室看護師）
- BLS体験（救急外来看護師）
- 内視鏡検査体験（救急外来看護師）
- 手洗いと防護具着用（感染管理部リンクナース）

仕事と真剣に向き合う日常の姿が、この日は楽しさと充実感にあふれていました。これからの日本の医療を支えるであろう学生たちとのふれあいは、自分たちの仕事の価値を改めて見出す貴重な機会となりました。「夢をみつけに来た」と進む道を探しに来た学生さん、「看護師にとって一番大事なものは何ですか」と記者さながら手帳に書き込む学生さん、「コードブルーを見て」あるいは「コウノドリを見て」憧れを抱き足を運んだ学生さんは、中央病院の職員とふれあいどのような将来の自分が見えたのでしょうか。

新化する時代に向かい深化を目指す人材育成のために、オープンホスピタルの進化は自分たちにとって不可欠なものであると確信した第2回目のオープンホスピタルでした。



看護部次長 笠寺 容子

# 第2回 OPEN HOSPITAL

2017.10.29(日)開催



DMATのトランシーバーの体験ができて楽しかったです。また来たいです。ありがとうございました。

ボードがあることで、自分の興味があるものに立ち止まることができるし、近くに解説してくれる方がいたことで質問も気軽にすることができました。自分の気持ちを固める良い機会となりました。ありがとうございました。

実際の仕事内容が見れて、モチベーションが上がって、普段の学校の授業もがんばろうと思いました。良い体験になりました。ありがとうございました！

## みんなの声

初めて聴診器を使ってみたのでおもしろかったです。丁寧な説明をどこに行ってもしてもらえて、とても勉強になりました！

自分の興味のある職業以外はあまり意識しなかったものの仕事内容にも触れることができ、将来の自身の道が広がったように感じました。まだまだ先の事と思わず、興味を持ち勉強していきたいと思います。来年も参加したいと思います。

どの人も優しく、明るく、話しやすい態度で居心地がとても良かったです。わかりやすく説明してくださりありがとうございました。

